

平成24年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成24年10月16日（火） 午前10時00分～11時30分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 （委 員） 加藤 恵美子 （豊田市スポーツ推進委員協議会 会長） 《副会長》
大橋 則保 （豊田市小中学校長会 会計）
北村 幸子 （豊田市女性スポーツ団体協議会 会長）
澤田 数衛 （豊田市区長会 理事）
柴田 泰典 （豊田市健康づくり協議会 会長）
手嶋 道雄 （豊田市スポーツ少年団 本部長）
平林 栄子 （スポーツ指導員）
湯浅 景元 （中京大学スポ一科学部 教授）
（事務局） 笠井 保弘 （教育長） 倉橋 剛 （教育行政部長）
曾我部 一郎 （スポーツ担当専門監） 堀野 強 （スポーツ課長）
坂井 京子（スポーツ課主幹） 杉山 寿美雄 （スポーツ課副主幹）
熊谷 明典（スポーツ課係長） 畔柳 隆二 （スポーツ課係長）

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 委嘱状交付
2 新任委員自己紹介
3 会長あいさつ
4 教育委員会あいさつ
5 議題
（1）平成23年度BC評価事業の進捗状況について（資料1）
6 報告
（1）平成24年度重点取組項目の進捗状況について（資料2）
（2）新たな教育行政計画の策定状況について（資料3）
（3）第33回豊田マラソン大会について（資料4）

【議事等の摘要】

■議事

事務局：資料に基づき説明（資料1）

平成23年度BC評価27事業のうち、平成24年度上半期までの計画に対し、進捗が遅れている事業が12事業ある。この中の3事業の今後の進め方について、ご意見をいただきたい。

委 員：3事業には共通点が多いので、1つにまとめた方が良いのでは。そして、1つにまとめた上で、市民がそれぞれのライフスタイルや体力などに応じて、選択できるような

プログラムにしてはどうか。

委員：委員が言われるように、プログラムをいくつも分けると作る側も大変であり、実施する側も混乱する。名古屋市や岡崎市は、統一したものになっている。

委員：健康体操については、健康分野との連携が必要である。高齢者の方が座ったままでできる体操などについても連携して進めていく必要がある。

委員：神奈川県の実践として、3033運動というものがある。これは、1日30分の運動を週に3日、3か月継続しようというもの。こういったわかりやすいキャッチフレーズも必要ではないか。

委員：子どものスポーツ教室に付き添いで来ている父母や祖父母が、スポーツ教室が終わるのを単に待っているのはもったいない。付き添いの間にできる運動を考えるもよいのでは。

委員：プログラムを考案する際に、流行を敏感に感じ取り、取り入れていくことも必要である。

委員：高齢者の方が地域で草刈や清掃を行っているところがあるが、作業前に揃って体操をやっていた。このような場面にも活用できるのでは。

委員：かつては、ストレッチなどで身体は柔らかいほど良いとされてきたが、現在では柔らかさと同時に筋力も必要であると考えられている。行政は、常にアンテナを高くし、スポーツ施策を進めていく必要がある。

副会長：本日の意見を参考に新たなプログラム作りに取り組んでいただき、そして普及していただけることを楽しみにしている。

■報告

(1) 平成24年度重点取組項目の進捗状況について

事務局：資料に基づき説明（資料2）

意見なし

(2) 新たな教育行政計画の策定状況について

事務局：資料に基づき説明（資料3）

委員：「スポーツに親しむこと」＝「子どもの体力向上」ではない。準備運動や整理運動などの中でいろいろな動きを体験させることが必要である。

委員：運動が苦手な子どもには「運動をさせる」という感覚ではなく、「体を動かすことは楽しい」と感じてもらえるような取組みが必要である。

(3) 第33回豊田マラソン大会について

事務局：資料に基づき説明（資料4）

意見なし

以上 平成24年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会終了